

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名

大正の人々と生活

内容のまとめり

C 近現代の日本と世界

(1) 近代の日本と世界

(エ) 近代産業の発展と近代文化の形成

1 単元目標

- ・ 第一次世界大戦後、国際協調の中における我が国の情勢と国際平和について理解する。
- ・ 関東大震災と国際協調の関係性を、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 関東大震災が横浜に与えた影響を、様々な資料を通して理解し、主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

大正期から昭和初期にいたる日本の様子について、経済では貿易や工業などについて、生活では現代に通じる生活様式の変化について、それぞれ日本の変容をつかませたい。特に、横浜の変容を軸に理解を深めていく。生徒は横浜について開港当初から明治初期について学習しているが、その後の変容についてあまり情報を得ていない。特に関東大震災をはさんで、貿易港として復興する様子や京浜工業地帯として発展していったことを理解させたい。

3 実践計画の概要

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。</p>	<p>・ 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・ 近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる仮題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>・ 第一次世界大戦後の国際協調における日本の情勢と大正期からの民主政治と工業化の高まりを理解している。</p>	<p>・ 大正期から昭和初期にいたる日本の様子について、国際協調と日本国内の工業化の進展を通して多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・ 近代の日本と世界について、国際協調、工業化の進展、文化の大衆化を関連付けながら、より良い社会の実現を視野に、そこに見られる課題を主体的に追求しようとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画 [4時間扱い]

学習活動と内容 (時間数)	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇)
<p>1 大正デモクラシーと政党政治 民主政治の高まりについて理解する。 政党政治の登場の過程について考える。</p>	<p>◇民主政治の高まったきっかけとなった事件を考えさせる。(日比谷焼き討ち事件) 政府の意図と民意のギャップをとらえさせる。 ◆吉野作造の民本主義を見る。</p>
<p>2 ワシントン会議と日米関係 ワシントン会議: アメリカの思惑について考察する。 会議の取り決め、会議の影響について理解する。</p>	<p>◇アメリカが、日本の成長を警戒していたことに触れつつ、日本を孤立へと向かわせたことを考えさせる。 ◆各国の戦艦保有数などの表を見る。 ◇日本の国際社会における立ち位置を確認させる。 ◇日本は財政的に余裕が出ていたことを確認させる。</p>
<p>3 関東大震災と横浜 本時 横浜復興記念式典のようすやパンフレットなどから、その資料の表しているものを考える。 山下公園の成り立ちについて生徒の考えを発表させる。 震災後の横浜の変容を理解する。</p>	<p>◆復興記念横浜大博覧会 1935 (昭和 10) 年のパンフレット (資料 1) ◇山下公園の果たした役割を考えさせる。 ◆完成した山下公園 [絵葉書] <都市発展記念館蔵> (資料 2) ◇横浜が大きな変容を迫られる歴史から、現在の横浜について理解させる。</p>
<p>4 文化の大衆化・大正の文化 横浜の都市の変化から文化の変容を理解する。</p>	<p>◆「数字で見る日本の 100 年」「日本近代史辞典」「財務省貿易統計」 ◇第一次世界大戦から昭和初期までを長いスパンでながめて、その変化をとらえられるように工夫させる。</p>

4 本時目標

- ・ 関東大震災に関する様々な資料から、震災が横浜に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現する。

5 本時展開

学習活動と内容	主な資料（◆）と教師の支援（◇）
<p>・横浜復興記念式典のようすやパンフレットなどから、その資料の表しているものを考える。</p> <p>【予想される生徒の反応】 S：お祭りでしょうか。 S：「復興記念大博覧会」と書いてあります。関東大震災の事でしょうか。 S：横浜が復興したのです。</p>	<p>◆復興記念横浜大博覧会 1935（昭和 10）年のパンフレット 南区 小林久子氏寄贈<横浜市歴史博物館蔵>（資料 1）</p> <p>【発問例】 T：これは何のパンフレットでしょうか。また、このパンフレットから分かることは何でしょうか。</p>
<p>・山下公園の成り立ちについて生徒の考えを発表させる。</p> <p>【予想される生徒の反応】 S：被災者の気分をまぎらす公園を作ったのでしょうか。 S：憩いの場としての公園の意味もあるけど、震災のがれきの処理にも困ったのだと思います。 S：防災の視点から避難所としての公園施設でもあるのだと思います。</p>	<p>◆横浜復興式典 1929（昭和 4）年（資料 1） ◇山下公園の果たした役割を考えさせる。 ◆完成した山下公園〔絵葉書〕<都市発展記念館蔵>（資料 2）</p> <p>【発問例】 T：山下公園は 1930（昭和 5）年に完成した。なぜこの時期に、ここに公園を造ったのでしょうか。 T：この資料がヒントです。◆横浜市日報<横浜中央図書館蔵>（資料 3）</p> <p>◇震災の影響で山下公園がつくられたことを理解させる。</p>
<p>・震災後の横浜の変容を理解する。 ・関東大震災での被害を資料から確認する。 ・横浜港の主要輸出品目の資料をよみとる。（資料 10）</p>	<p>◇震災の状況を確認する（資料 3～9） ◇震災による影響で横浜が大きな変容を迫られる歴史から、現在の横浜について理解させる。 ◆横浜港の主要輸出品目（資料 10 横浜税関のホームページより） ◇主要品目が震災後から徐々に機械類が増えていることに着目させ、震災の影響で横浜が工業化へ大きく舵を切ったことを理解させる。</p>

6 博物館との連携

さまざまな資料を使う中で、写真、年表、地図をうまく関連づけて身近な地域としての歴史を感じさせる。特に特集した展示会の資料を有効に使うことで、整理された情報を適切に指導に生かすことができる。特に、横浜都市発展記念館、開港資料館の共同展「関東大震災と横浜」の図録(各博物館で販売)地震発生から災害の状況、人々の避難、災害後の生活、さらに復興の様子まで写真、図表などを駆使して具体的に見てとれ授業に活用するには最も効果的な資料である。下の画像の多くは図録による。

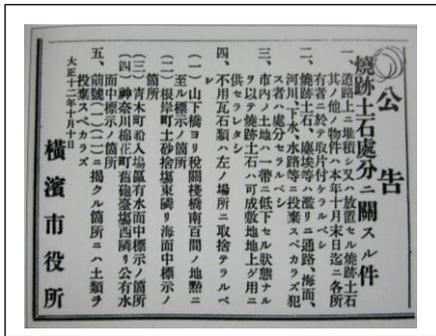
資料1 復興記念横浜大博覧会 1935 (昭和10) 年のパンフレット
南区 小林久子氏寄贈<横浜市歴史博物館蔵>



資料2 完成した山下公園〔絵葉書〕
<横浜都市発展記念館蔵>



資料3 横浜市日報<横浜市中央図書館蔵>



資料4 震災直後の横浜駅<横浜開港資料館蔵>



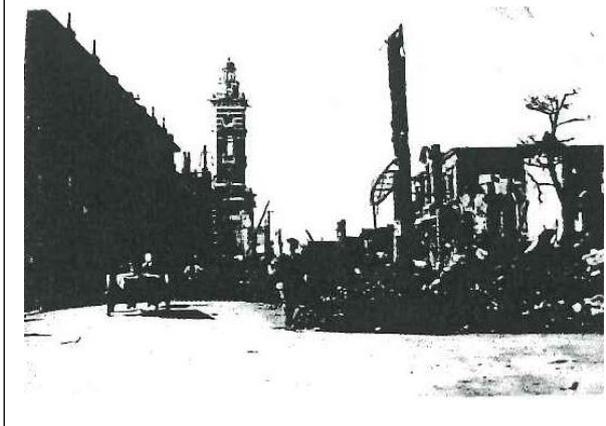
資料5

地震発生直後の横浜市街地

岡本三郎撮影、岡本すみ子氏寄贈<横浜開港資料館蔵>



資料6 本町通りの様子【関東大震災資料・横浜開港資料館・横浜市史資料室蔵】



資料7

「震災被害図」(『横浜復興誌』第2巻付図) 横浜開港資料館蔵



資料8

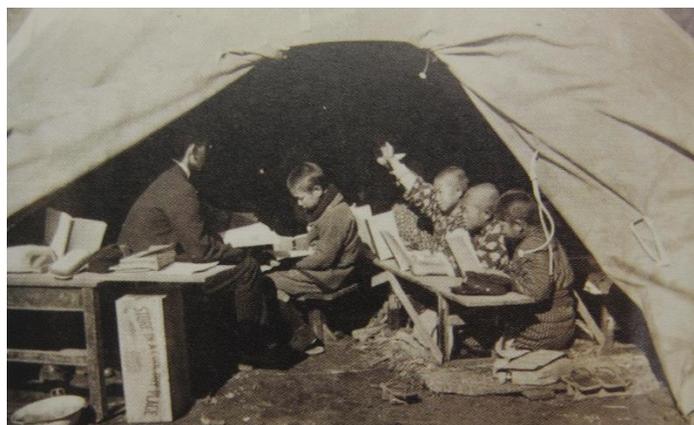
三春台(南区)からみた横浜市街地(前川謙三撮影、横浜市史資料室所蔵) ※定点観測写真



資料9

小学校のテント郡(本町小学校)
前川謙三撮影、横浜市史資料室所蔵

元街小学校復興誌資料 横浜市史資料室所蔵
テント内での授業



横浜港の主要輸出入品目

(金額：～明治13年 万ドル 明治23年～ 百万円)

年	輸出			輸入		
	品名	金額	構成比	品名	金額	構成比
万延元年 (1860)	生糸	259	65.6	綿織物	50	52.8
	茶	31	7.8	毛織物	37	39.5
	油	22	5.5	薬品	2	1.9
	銅類	21	5.3	亜鉛	1	1.2
	種子	12	3.0	蘇木	1	1.2
	計	395	100.0	計	95	100.0
明治3年 (1870)	生糸	458	40.4	米	1,063	45.4
	蚕卵紙	347	30.6	綿糸	354	15.1
	茶	269	23.8	綿織物	229	9.8
	蘭	10	0.9	砂糖	198	8.4
	苧綿	8	0.7	毛織物	92	3.9
	計	1,133	100.0	計	2,343	100.0
明治13年 (1880)	生糸	861	46.3	綿糸	722	27.4
	茶	473	25.4	綿織物	385	14.6
	蚕卵紙	99	5.3	砂糖	273	10.4
	屑糸	68	3.7	毛織物	231	8.8
	熨斗糸	61	3.3	綿毛交織物	133	5.0
	計	1,858	100.0	計	2,634	100.0
明治23年 (1890)	生糸	14	42.3	綿糸	6	13.8
	茶	4	11.2	砂糖	5	13.0
	銅類	3	9.4	米	5	11.6
	絹手巾	2	7.7	毛織物	4	9.7
	熨斗糸	1	4.4	機械類	3	7.4
	計	32	100.0	計	41	100.0
明治33年 (1900)	生糸	45	46.9	鉄類	14	12.4
	羽二重	17	18.1	砂糖	13	11.9
	茶	5	5.6	毛織物	9	8.4
	銅類	5	5.2	綿織物	9	8.0
	絹手巾	4	4.5	機械類	8	6.9
	計	95	100.0	計	110	100.0
明治43年 (1910)	生糸	130	57.8	緑綿	24	15.6
	羽二重	28	12.6	鉄類	16	10.3
	銅類	7	3.1	薬品	12	7.6
	屑糸	5	2.4	羊毛	10	6.3
	絹手巾	5	2.1	機械類	9	6.1
	計	225	100.0	計	154	100.0
大正9年 (1920)	生糸	383	49.9	緑綿	103	14.5
	羽二重	85	11.1	鉄板	49	6.9
	輪種	22	2.9	羊毛	43	6.1
	屑糸	15	2.0	油糟	42	5.9
	玩具	12	1.6	形鋼	27	3.8
	計	766	100.0	計	710	100.0
昭和5年 (1930)	生糸	291	64.6	雑機械・部品等	26	6.7
	蟹缶	13	2.9	小麦	26	6.6
	小麦粉	12	2.7	緑綿	25	6.5
	楢種	9	2.1	木材	16	4.2
	羽二重	8	1.9	鋳油	15	3.9
	計	450	100.0	計	393	100.0

年	輸出			輸入		
	品名	金額	構成比	品名	金額	構成比
昭和15年 (1940)	生糸	331	34.5	鉄	122	11.1
	機械類	86	8.9	原油・重油	95	8.7
	自動車・部分品	34	3.5	銅	94	8.6
	小麦粉	32	3.3	金属・木工機械	70	6.4
	鉄	29	3.0	米	61	5.6
	計	960	100.0	計	1,097	100.0
昭和25年 (1950)	生糸	9,475	14.4	小麦	17,756	27.5
	鉄類	7,124	10.8	石油	5,162	8.0
	銅	4,886	7.4	砂糖	5,112	7.9
	綿織物	4,610	7.0	ゴム類	3,255	5.0
	人造繊維織物	2,702	4.1	化学肥料	2,683	4.2
	計	65,901	100.0	計	64,611	100.0
昭和35年 (1960)	電気機器類	47,409	14.7	薬品類	30,280	9.5
	魚介類・肉類製品	39,043	12.1	原油・粗油	22,427	7.0
	衣類	22,610	7.0	採油用子実	22,149	6.9
	鉄鋼	18,785	5.8	小麦	20,185	6.3
	光学機器	15,803	4.9	非鉄金属鉱	19,484	6.1
	計	321,966	100.0	計	319,600	100.0
昭和45年 (1970)	自動車	208,262	12.3	非鉄金属	127,566	10.9
	ラジオ受信機	105,297	6.2	原油・粗油	112,712	9.7
	鉄鋼	90,899	5.4	事務用機器	44,117	3.8
	科学光学機器	90,457	5.3	非鉄金属鉱	40,551	3.5
	テープレコーダ	76,529	4.5	大豆	28,653	2.5
	計	1,691,494	100.0	計	1,165,837	100.0
昭和55年 (1980)	自動車	1,471,596	23.2	原油・粗油	458,369	17.1
	科学光学機器	265,770	4.2	非鉄金属	356,435	13.3
	テープレコーダ	191,238	3.0	石油ガス	109,340	4.1
	ラジオ受信機	178,986	2.8	魚介類・肉類製品	70,923	2.6
	テレビ受像機	175,638	2.8	パルプ	68,463	2.6
	計	6,338,792	100.0	計	2,684,291	100.0
平成2年 (1990)	自動車	973,263	14.6	非鉄金属	508,398	15.9
	事務用機器	485,460	7.3	自動車	349,979	11.0
	映像機器	368,886	5.5	原油・粗油	176,885	5.5
	科学光学機器	292,804	4.4	衣類・肉付食品	110,240	3.5
	自動車の部分品	254,762	3.8	石油製品	98,405	3.1
	計	6,667,194	100.0	計	3,187,618	100.0
平成12年 (2000)	自動車	783,888	12.8	非鉄金属	260,564	9.1
	事務用機器	397,033	6.5	原油・粗油	223,367	7.8
	科学光学機器	340,788	5.6	衣類・肉付食品	215,767	7.6
	自動車の部分品	340,697	5.6	事務用機器	118,438	4.2
	原動機	229,333	3.8	自動車	113,465	4.0
	計	6,108,719	100.0	計	2,853,460	100.0
平成19年 (2007)	自動車	1,872,181	21.5	非鉄金属	530,649	13.0
	自動車の部分品	562,130	6.5	原油・粗油	284,927	7.0
	建設用・鉱山用機械	445,068	5.1	天然ガス・製造ガス	224,171	5.5
	原動機	424,492	4.9	衣類・肉付食品	184,125	4.5
	事務用機器	347,123	4.0	事務用機器	107,529	2.6
	計	8,693,500	100.0	計	4,083,435	100.0